

シバツトガ大発生！！

今年の夏は暑かったですね。おまけに降雨も少なく、植物を管理する方にとっては頭の痛いシーズンとなったのではないのでしょうか。その暑さのおきみやげなのか、各所でシバツトガが大発生となっています。今回は、シバツトガについてご紹介します。

異変を感じたのは10月上旬の某日。現場にて芝生の上を歩くと、白くて小さいモノがひらひらっと飛び立ちます。ここまではごくたまにある風景だったのですが、その頻度がいつもより多いような？と思いつつ作業中のトラクターに目をやると！そこには群がるシバツトガの姿が。現場経験が長い方もこんなに大量なのは見たことがないとのこと。一体何が起きているのでしょうか。

シバツトガ（チョウ目メイガ科）は、アメリカから侵入してきたとされ、日本では1960年代ごろからゴルフ場等で被害が見られるようになりました。成虫は灰白色で、体長8～9mm程度、幼虫は灰褐色～暗褐色、孵化直後は1mm位、老齢幼虫は20mm程になります。地際に土や芝かすで苞（つと）を作るため、シバ「ツト」ガと呼ばれます。夜行性（8～9時頃が中心）で、幼虫は苞を出入りし、芝を食害します。

成虫の発生は5月上旬～6月中旬、7月上旬～8月中旬、8月下旬～10月中旬（地域にもよる）の3回発生ですが、近年は温暖化のためそれ以降も発生することがあるようです。高温・乾燥を好むようで、今年の大発生もこの夏の気候（高温・降雨不足）が関係していると考えられます。

対策としては、幼虫の密度が高まる前（成虫発生ピーク後）の殺虫剤散布が有効です（地際に潜むため、薬剤散布前に芝を刈り込み、活動が活発化する直前の夕方以降に散布するとより

シバツトガ成虫▶



▲▼トラクターに群がるシバツトガ



シバツトガによると思われる被害



シバツトガ幼虫▶
丸和バイオケミカルバンフレットより

効果的です）。今年の大発生で個体数が増えたことから、来年も発生数が増えることが予想されます。防除のタイミングを見逃さないようにして、大発生を防ぎましょう。

製品紹介

バイオシュートEX

バチルス菌の酵素でサッチを分解



- サッチ※の減少により、土壌処理型除草剤の効果の向上が期待できます。
 - 土壌の透水性、通気性が高まります。
 - 植物の発根を促進し、植物が本来持っている抵抗力を高めることで、病害の予防に繋がります。
- 日中の地温が10°C以上で使用してください。
- サッチが多い場合は、春と秋の2回散布が効果的です。

- 一般名称：微生物サッチ分解資材
- 内容成分：バチルス菌（生芽胞）
5X10⁹cfu/g配合
- 包装：500g/袋、10袋入りケース
- 施用目安：0.2~0.4g/m²
(水量200~500ml/m²)

サッチとは枯れた芝や芝刈の際に発生した芝かすがたまって層になったもの。サッチが厚く集積すると、降雨をはじいて土壌への透水を妨げたり、逆に水を吸収して通気性を悪くしたりします。

カーメックス顆粒水和剤

長期間効果が持続 イシクラゲ対策にも



- 雑草の発生前から生育期の散布で、雑草の発生抑制および枯殺効果を示します。
 - 土壌中の移動性が少なく、長期間効力が持続します。
 - 顆粒水和剤のため粉立ちがなく、薬剤調整時の作業等への負担を軽減します。
- DCMUを含む農薬の総使用回数は3回以内です。

- 有効成分：DCMU 80.0%
- 毒性：普通物
- 包装：1kg/袋、20袋入り/ケース

※ イシクラゲは、透水性が悪くジメジメした所に発生しやすいため、薬剤の散布にあわせて透水性を改善する処置を行うことで、根本的な防除に繋がります

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量/10a	希釈水量/10a
樹木等 (公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等)	一年生雑草	雑草発生前	200~2000g	25~200L
	コケ類	コケ生育期	200~400g	25~100L
	イシクラゲ	イシクラゲ生育期		

サカエグリーンでは、カーメックス顆粒水和剤によるイシクラゲ防除試験を行いました

散布前
(2020年7月)

カーメックス顆粒水和剤
(0.2g/m²) 散布

散布から1年経過
(2021年7月)

完全な除去には至らなかったものの減少効果が得られた

取扱い・お問合せは—